

子乗せ電動自転車 危ないのは「停止中」

車体重く 親子で100kg超えも



電動アシスト自転車に子どもを乗せる保護者。東京都品川区

都市部の子育て世代の移動に重宝する電動アシスト自転車。車体が重く、小回りも利きにくいなど、普通の自転車と大きく異なる特徴があり、事故も増えている。消費者庁の調査では、事故の8割が、停止中に発生。何に気をつければいいのか。

転倒リスク大 事故の8割占める

東京都世田谷区に住む30代の女性は昨年、電動アシスト自転車を使い始めて約2週間後、転倒した。5歳の息子を後ろに乗せ、保育園から帰宅したときのこと。玄関前の道に自転車を止め、前カゴの荷物を先に下ろしたところ、道路が少し傾いていたこともあり、倒れかけた。とっさにハンドルに手をかけたが、自転車の重さに耐えられず、支えきれなかった。幸い、子どもはヘルメットをかぶっており、けがはなかったが、「二つ間違えば大けがをしていたかも。ひやっとした」と話す。

このうち詳細が確認できた。保護者が自転車から降りた19221人の事故を調べたところ、停止中が最も多く79.6%で、停止中の転倒事故は73.4%を占め、報告書では、前輪とスタ

「最後に乗せ 最初に降ろす」鉄則

注意するポイントはどんなところなのか。交通安全対策に詳しい東京都市大学の稲垣真志・准教授（交通工学）による

と、停止中は「子どもを乗せるのは最後、降ろすのは最初で荷物は後」。子どもが乗っている間は、目を離さないことが大切。発進時は思い切りペダルを踏み込まないなど、

稲垣さんは「子育て中の保護者は時間的な余裕がない中で運転していることも多く、安全確認がおろそかになりがち。子乗せ自転車に適した所作を一度確認し、普通の自転車との違いを意識して使してほしい」と話した。（片田貴也）

加速時に転倒しやすいので注意が必要だ。

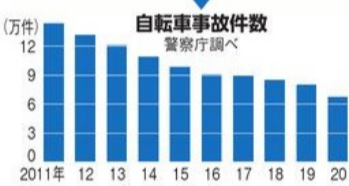
ヘルメット必須

走行中で特に注意がいるのは、段差や右左折だ。車道と歩道の5%程度の段差でも、浅い角度で進入しないようにするほか、小回りが利かないので無理な方向転換はしない。子どもにヘルメットをかぶせることも不可欠だ。

バランス難しく

電動アシストは、こぎ始めに加速が得られて負担が少ない一方で、ペダルの踏み加減を誤ると重心も高くバランスを崩しやすい。車体も重く、親子で乗ると総重量は100kgを超えることもあり、一度倒れかかると自力で持ち直すことが難

消費者庁の消費者安全調査委員会（消費者事故調）が20年に出した報告書によると、東京消防庁の救急搬送データで、6歳未満の幼児を乗せた自転車（電動アシストを含む）の単独事故で搬送された幼児は、11年以降の7年間で1443



- この記事・写真等は朝日新聞社の許諾を得て転載しています。（承諾番号 22-0539）
- 無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。